

しんらん同人



2月24日 法座にて
山本掇叡師



1月27日 法座にて
大野孝顕師 (後列左)

No,549

3・4
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

先日お寺に「発信者非通知」で電話が架かって来ました。

「岡本さんのお宅ですか？」

(私) 「ええ」

「こちらは目白警察署の〇〇です。いま詐欺グループを捕まえて調べていますが、岡本さんのキャッシュカードも発見されました。・・・」

前住職が亡くなって三年半、もちろん口座もカードもありません。だまされた振りをして相手の説明に応じました。

以下延々と一時間程やり取りがありました結果。

「今から金融庁の係員がお寺に『二重封筒』を持って行くのでその中にキャッシュカードを入れ、自宅で厳重に保管するように」との内容でした。

派出所に連絡をし、刑事さんにも来ていただきましたが、残念ながら詐欺関係者を捕まえることは出来ませんでした。しかし、収獲はありました。

それは、私が最後まで疑問に思っていたことで、どうやってキャッシュカードを持っていくのかという事です。

刑事さん曰く、「二重封筒をすり替える手口です。自分が受け取った封筒にカードを入れた後、印鑑等が必要ですよとわかれ印鑑を取りに行っている間に、別の封筒にすり替える」というのです。

オレオレ詐欺や二重封筒詐欺等々、親の子を思う心やお年寄り・弱者をだまして稼ぐ生活にどのような満足感があるのでしょうか。寂しい思いを感じた出来事でした。皆様もご注意ください。

誓願寺初代住職 故岡本泰雄

(昭和五十一年法話)

おんな 太閤記に 思う



最近テレビで放映されている「おんな太閤記」の豊臣秀吉は、関白になった時からとても威張り始めました。馬の口取りをしていた人が天下を取ったのですから当然でしょうが、頭など下げたことがありませんでした。

誓願寺の檀家にとっても変わったご主人がいらっしやいました。「こんにちは」と挨拶すると、悪気があってのことではありませんが「おお」と頭が後ろへ行きます。珍しい方でした。でも、お参りの回を重ねるうちに熱心にご法義を聴聞なさるようになりました。

そうなると今までのように、頭が後ろへはまいません。挨拶する時には必ず手を合わせて頭を前に下げました。そしてお亡くなりの中にはお念仏を喜びながらご往生なさいました。

豊臣秀吉もおそらくこんなのであったのでしょうか。

関白になった秀吉は、京都に豪華壮麗を極めた聚楽第を建立しました。その後、後陽天皇がお出ましになるといので、当時

随一の絵師・狩野永徳を招いて床の間に富士の絵を描かせることにしました。

永徳は狩野派繁栄の基礎を築いたほどの絵師です。日頃の秀吉の傲慢さが気になっていた彼は、反省させるまたとない機会とばかり喜んで受諾しました。

そして準備万端整えて見事な富士を描き上げました。心待ちにしていた秀吉は早速見分に赴きました。だが床の間には何も描いてありません。

「描いてないではないか、どこにあるんだ」いつもの癩癩が起こりかけました。

「恐れ入ります。お座りになって下さい、そうでないと見えませんから」

「そうか」と言って座りましたが、やはりありません。

「ないではないか」この時、永徳は言いました

「畳に手をつけて、下から見上げて下さい」

せっかくの富士を見ようと焦っていますので、言われるままに両手をつけて頭を垂れて下から見上げました。

するとどうでしょう。床の間の一番上の所に、それも見落としそうな小さな富士が描かれています。

秀吉はいつのまにか両手を付く我が姿に気づきました。

後世この部屋を「礼儀の間」と呼ぶようになりました。

私はこの話を聞いて心に強く打たれるものがありました。若いころの私は、仏さまの教えを聞くのに、頭を高く上げ「仏とは

なんぞや。極楽はどこにありや」などと、意気高々と聞こうとしたものです。自分は偉いのだ、なんでも分かっているという驕慢心がありました。

信仰とは読んで字のごとく信じ仰ぐことです。仰ぐ心がなければ仏法は聞かれません。

頭を深く垂れて仰いでこそ真実がいただかれます。仏さまのお慈悲に抱かれていた。私を思って下さっていたのだと信ずる身とさせていただいた人は、もうその時から幸せ者で、いつどんなことが起きても、お浄土という真実の世界に生まれさせてもらおうという喜びに恵まれています。これなくしては本当の生き方はありません。

教えを聞くとは、自分の姿に気づかせてもらい、驕慢の頭が少しずつ垂れ下がって仏さまのお慈悲を仰ぐ身とさせていただくことです。

新聞やテレビで毎日のように伝えられている様々な事件や問題を含め、ご恩を感謝しない、ありがとうと手が合わせられない日暮らしが今後も続くとしたらどうなるのでしょうか。

先ずは各自のご家庭でともに手を合わせる。朝晩だけでもよい、手を合わせてお念仏を申し、自分を振り返る日暮らしを次の世代に伝えてゆきたいものです。

広大なお慈悲を信ずる身とただできれば本当に豊かな毎日がおくらせていただけます。ともに手を取り喜び合って行くのがお念仏の世界です。



「法味抄」より

常に深く考え、悪から遠ざかり、善をえらび努めて行なわなければならない。愛欲の榮華は永く保ちえるものではない。
(大経)

花を見て美しいなと思ったのは、その花の美が心にうつったのである。絶え間のない光の恵みを受けて有難いという心が起こり、お念仏申されるのを一念喜愛心という。
(一念発起抄)

如来は、お見通しであることを考え、人が見ていようと見えていまいとも、あやまちはひるがえさなければならぬ。
(聞書)

「法味抄」は、故岡本泰雄が「聖教を読みたいと思っても、漢文や古文で書かれているのでなかなか理解しにくい。わかりやすい仏教書がほしい。」という方々の願いに応じて、真宗聖教中から要文を抜き出し、意訳した冊子です。
聖語末の（ ）内の文字は聖教の書名を略記したものです。

【ご法座等のご案内】

3月

3・10
(日)

■ 午前十時

定例法座 【岡本信悟師】

■ 正午

医療相談 【佐藤公彦医師】

3・17
(日)

■ 午前十時

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生まで)

3・24
(日)

■ 午後一時

彼岸会法要・祥月命日合同法要

【星野親行師】

4月

4・14
(日)

■ 午前十時

花まつり

故岡本泰雄(三十三回忌)

・ 故政枝(十七回忌) 合同法要

【古賀住職】

4・21
(日)

■ 午前十時

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生まで)

4・28
(日)

■ 午後一時

定例法座・祥月命日合同法要

【大野孝顕師】

編集後記

・ 新年度より、故高田慈昭師の後任講師として、お忙しい日程の中、大野孝顕師・山本撰叡師・星野親行師・濱畑僚一師の各氏に法座のご講師をお引き受けいただきました。詳細は各月日程をご確認ください。

・ 「法味抄」の中の一文に、加賀の興市お同行の話がある。

興市は、深くお慈悲を喜び腹を立てなかった。ある日、村の若衆が彼を田の中に突き落とした時も、「後生の一大事を知らせて下さった」と言って喜んだ。

冒頭の「われも ひかりの うちにあり」に記載いたしました、詐欺に遭いそうになった経験を、日頃の実生活に気を付く、おごり高ぶった自分の生きざまに、大きな警鐘を響かせて下さった大切なご縁として、どのように受けとらせていただくかが重要だとつくづく反省し、早速坊守と話した次第です。結論はまだませんが、一歩ずつ進みたいものです。

・ 三月に行信教校を卒業予定の長男・明德は、布教師を目指して今しばらく研修の予定です。誓願寺に戻るのが遅れませんが一層の成長を期待している親ばかりです。